

令和4年5月12日

《続報！！》バガスチャレンジ！

『学び、実践しようSDGs！春休み自然体感キャンプ(3月28日(月)～29日(火))』で、埋めたバガス容器はあれからどうなったの？

3月28日(月)～29日(火)に愛知県青年の家にて開催しましたキャンプにて、野外炊飯の際に使用した『バガス容器』を土に埋め、生分解性実験を行いました。5月7日(土)の『家族で学び、実践しようSDGs！春の自然体感キャンプ』にて経過観察を行いました。

3月末に行った生分解性実験では、3つのケースを用意し、それぞれ異なる場所で採取した土を入れました。

Aのケース：さらさらした土を入れました。

Bのケース：さらさらした土と粘土質の土の両方を混ぜて入れました。

Cのケース：粘土質の土を入れました。

さて、今回のSDGsキャンプでバガス容器の提供をいただいた株式会社折兼の実験では、“76日で土に還る”という結果が出ているが、本当に土に還るのか？また、採取した土によって果たして違いはあるのだろうか？

※なお今回の実験は、岡崎市環境部の指導のもと、直接土壌に埋めるのではなく、ケースの中で行っております。



(バガス容器)



(土採取の様子)



《みんなの予想》

Cのケース(粘土質の土)内のバガス容器が、一番分解が早いと思う。

3月29日(火)に参加してくれたお友だちの予想は、このようになりました。

(Cのケース>Bのケース>Aのケース) ほとんどの子がCのケース(粘土質の土)に期待しているようでした。

・・・果たして5月7日(土)(39日経過)の状況はどうなっていたのか？

<次のページに進む>



A



B



C

39日後の様子(5月7日(土):中間観察)

《中間観察》

頑丈なバガス容器が、薄く、柔らかくなっており、微生物や幼虫などの力により分解が進んでいました。また、Aのケースの分解が他のケースより分解が進んでいたように感じられました。3月に引き続き参加した子からは、『カブトムシとかが好みそうな大きな木の下で採取したさらさらの土だったから、幼虫や微生物も多くいたのかも』そんなことも聞かれました。

果たして、次回の観察では、バガス容器にどのような変化があるのでしょうか？

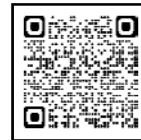
《次回の観察予定》

6月11日(土)～12日(日)

『家族で学び、体験しよう！SDGs自然体験キャンプ』(会場：愛知県青年の家)

募集受付期間 ～5月22日(日)まで

詳細は財団HPまたは、QRコードからご確認ください。



公益財団法人 **愛知県教育・スポーツ振興財団**
Aichi Education & Sports Promotion Foundation

企画推進課 SDGs キャンプ係

〒460-0007 名古屋市中区新栄1-49-10

電話番号：052-241-9101

ホームページ <https://www.aichi-kyo-spo.com/>

